Vol. 30 2016.12

ROKKO NEWS

http://www.rokkorugby.com
特定非営利活動法人
六甲クラブ

全国大会出陣号

「日本一へ Be The Best」

文の里クラブに激勝！
～近畿リーグ2年連続全勝V！～

六甲2年連続全勝優勝！。六甲ファイティングブルは11月13日（日）、大阪府堺市のJグリーン堺で近畿リーグ最終戦を行い、文の里クラブに地力の差を見せつけ46対29で快勝、2年連続でリーグ全勝優勝を決めるとともに、23年連続23回目の全国大会出場も決めた。谷晋平主将（27）は「ここからが本当の戦いが始まる」と、全国大会までの約2カ月でさらにチーム力を高めるべく、メンバーの熾烈なポジション争いを訴えた。3年続けて決勝切符を逃している大舞台に、メンバースタッフ一丸となって挑戦する。

近畿リーグ最終戦（11月13日 Jグリーン堺）

六甲ファイティングブル	文の里クラブ
46	29
（17－22、29－7）	

	六甲FB	文の里クラブ
T	5	1
G	2	1
PG	0	0
前T	29	7
前G	3	4
前PG	1	1
後T	0	2
後G	17	2
計	46	29

▼入替　奥田英二（東海大）＝永田、日下＝中江（滝村男樹（近大）＝竹田和樹（東海大）＝前田二宮翔（同大）＝鳥原（村尾真秀（天理大）＝市橋、山田利之（大商大）＝加村

六甲FB先発

FW	村来	一之（大産）
	田中	孝大（※）
	福島	清登（谷大）
	志摩	拓也（九共大）
	中江	翔平（帝塚山大）
	福島	勇樹（関学大）
	小野	明盛（筑紫台高）
	前田	晋平（帝京大）
HB	三木	宣郎（天理大）
	寺田	勇英（甲南大）
	市橋	幸司（立命大）
	鳥原	将司（帝京大）
TB	加村	一之（同大）
	加来	太人（京大）
	永田	大明（帝塚山大）
FB	谷晋平（主将）	

（※）：カリフォルニア州立大ウェズレイ校

近畿リーグ最終戦、文の里クラブとの全勝対決は「日本一奪還」に燃える六甲戦士たちの強い決意が爆発した戦いとなった。

前半早々、ビデオ分析などで「打倒六甲」対策万全の文の里に攻め込まれるが、六甲は懇親のデフェンスを繰り返しこれをしのぐ。あわやトライかという場面では、WTB市橋とLO志摩のダブルタックルで相手をタッチライン外にはじき飛ばす。

前半13分、やっと六甲にチャンスが来た。巨漢CTB寺田が相手防御を突破する。さらにはPR加村がビックゲインでゴール前まで迫る。素早いラックから最後はFB鳥原に渡り、右隅に先制トライをあげる。文の里にトライを返され逆転を許しても六甲は慌てない。

タッチを狙った文の里のキックをFB鳥原がライン際で絶妙な処理を見せ、WTB三木へとつなぐ。韋駄天WTBは自陣からひらりひらりと相手防御をかわしてあっという間にゴール前に。ラックからまたもや闘犬PR加村が鋭く切り込みずんぐりむっくりした体で逆転トライに成功した。

序盤から巨体を利して猛然と突破を繰り返すCTB寺田。そしてトライを量産するWTB三木。「昨年の準決勝は僕らで負けたといってもいい」と、1年越しの雪辱へ燃えている。寺田は3人がかりのタックルにも負けず、鈍い衝撃音とともに愚直にクラッシュを繰り返し、相手防御に恐怖心を与え、三木は独特のステップで翻弄。前半だけで5トライを数えて29－7でのハーフタイムとなった。

後半も六甲は最初の10分に再び集中する。後半1分、市橋が左隅にトライ。後半10分には再びFB鳥原、そして28分にはスクラムから№8小野がインゴールにトライを叩き込み、46－12と大差をつけた。「この辺りまではいい流れだったんですが…」（谷主将）

ここからさらに追い討ちをかけようと、六甲は次々とリザーブを投入していくが、これが少し裏目に出た形となった。「リザーブの選手も実力的には問題ないはずなんですが、気持ちの準備がうまくいっていなかった」と谷主将が振り返るように、結局後半残り15分で3トライを失い46－29。2年連続で近畿リーグ全勝優勝、23年連続23回目の全国大会出場を決めたが、メンバーには少しほろ苦いノーサイドとなった。

それでも合計8トライを奪っての激勝。関西には敵なしを改めて印象付けた強い戦い方だった。

解散前の全体集合で、谷主将は少し長めの話を始めた。

「ここから全国大会までの約2か月が非常に重要になっていきます。ケガから復帰する選手もあり、チーム内の争いもより熾烈になってくると思います。リーグ戦に出ていたからと言って、全国大会に出られるとは限りません。」

全国大会をどのメンバーで戦うか。主将の頭の中を様々な思いが交錯している。先日「本当に悩みますね。うれしい悲鳴ですけど（苦笑）」とこぼしたこともあった。

「僕は今の六甲メンバーが一人も欠けることなく、戦い切りたい。日本一になりたい。」

大学の部活でもないのに、自分が試合に出れないのに、ボールや給水やビデオやアップサポートを、悔しさをグッとこらえてサポートする仲間を知っている。選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、裏方で身を粉にするトレーナーやマネジャー、スタッフのサポートもしっている。

「（試合に出られない）みんなの思いも背負って試合に出ているつもりです。みんなの熱い想いはチームのエネルギーになります。残り三か月、日本一に向けてBESTを尽くしましょう」

さあ、待ちに待った全国大会。4年ぶり7回目の日本一へ、全員で日本一を勝ち取りに出陣する。

六甲ファイティングブル。

今はただ走り抜けるのだー。

スポーツ振興くじ助成事業
toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

雨でも笑顔と感動は変わらず！
～2016年秋のドリームラグビー、初の室内で開催～

NPO法人・六甲クラブの地域貢献活動の一つ、「ドリームラグビー」が11月19日、兵庫県西宮市で開催された。多機能型障がい者施設「ドリーム甲子園」の利用者とラグビーを通じて交流を深めるもので、15回目の今回はあいにくの雨模様のため、「ドリーム甲子園」の施設内での開催となった。

まずは利用者の皆さんにラグビーをもっと知ってもらおうと、「ラグビーは何人でやるか？」「ボールを前に投げていけない？」「次のワールドカップの開催地は？」など、六甲の選手からラグビーに関するクイズを出題。日頃から、六甲クラブを応援してくれている利用者さんには少し簡単？だったか、正解者が続出した。

次に安全なスペースで、ラインアウトのジャンパー、コンタクトバッグにぶつかってみるなど、ラグビー選手になってみる体験が盛り上がりを見せた。最後は数チームに分かれてのボール回しタイム競争。今年もあっという間に楽しい時間が過ぎていった。

終わりに、利用者の皆さんから恒例となっている手作りクッキーを、日本一奪還を願う寄せ書きの旗が、代表して六甲ファイティングブル・谷主将に送られた。「いつも皆さんには勇気と元気を頂いている。皆さんの応援がメンバー一人一人の力になっています」と感謝を述べ、今年こそ全国大会で4年ぶり7度目の日本一奪回を固く誓った。

六甲クラブは今後ともこうして地域貢献活動を続けていく。（※この事業は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施されています。）

実力、組織力ともにナンバーワンを！

総監督
東田 哲也
ひがしだ・てつや

いつも応援とサポートありがとうございます。今年で23年連続23回目の全国大会出場となります。これまで6度の全国制覇を成し遂げていますが、このところ3年間優勝から遠ざかっています。今シーズンは主将3年目のシーズンとなる谷が勝負の年として各リーダーと共にチームをよく引っ張ってくれており、選手もそれに応えるべく、一丸となって王座奪回に挑みます。活躍が楽しみな新戦力も充実しておりますので、どうぞご期待ください。

2019年のワールドカップ日本大会に向けて、クラブカテゴリーらしく、地域に根付いた活動も踏まえ、スタッフ等を含めた組織力、そして実力ともにナンバーワンを目指します。今後ともより一層の熱いご声援をよろしくお願いいたします。

今年こそ念願の日本一に！

六甲ファイティングブル
主将
谷 晋平

いつもより多大なるご支援・ご声援ありがとうございます。主将を任されて3年が経ちました。1年目、2年目と準決勝敗退という悔しい結果に終わっています。今年こそ、念願の日本一になりたいと強く願っています。

この3年間でたくさんの苦楽を分かち合える選手、スタッフ、トレーナー、マネジャーに出会えました。必ずみんなで目標である日本一になりたいと思っております。

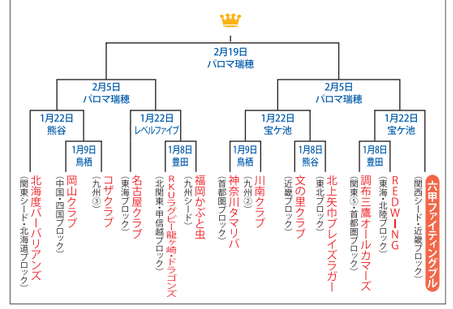
その目標をかなえるためにサポーター、スポンサーの皆さんと共に戦い、勝利の喜びを分かち合いたいと思っております。是非グラウンドにおこしいただき、熱い声援を送ってください！BESTを尽くして頑張ります！

理事長 中島 誠一郎

全国大会では全てのチームがしっかりと準備をしてきます。我々もプレーの軸と精度を高めてチームの強みを発揮する準備をしていきます。また、ゴールとして日本一を奪還することはもちろんのこと、クラブラグビーの試合を観て、選手たちのひたむきな姿に感動したり、エキサイティングな気持ちになるラグビー、また観たいと思ってもらえるラグビーをすることでラグビー界の底上げに貢献したいと思います。

皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

第24回 全国クラブラグビー大会・組み合わせ表



プレーヤー・サポーターも募集しています！

個人後援会員	団体・法人会員	ユニフォームロゴ・スポンサー
年間会費　2,000円	年間会費　1口10,000円（原則2口以上）	年間50,000円～（要相談）（原則2年契約）
予定している特典 ・会報の送付 ・試合、行事などの案内 ・ファンの集いの案内、優待など	予定している特典 ・試合、行事などの案内 ・後援会業(団体)交流会 ・企業(団体)広告の掲載 ・ファンの集いの案内、優待など	予定している特典 ・ジャージー・パンツなどにロゴ ・団体、法人会員と同等の特典 ※詳しくはお問い合わせください。

◀サポーターの年会費と特典内容

お問い合わせは　特定非営利活動法人 六甲クラブ サポーター会員募集事務局（担当：山崎秀子）
お問い合わせはEメールにてお願い致します。
e-mail:rokkoclub@hct.zaq.ne.jp　FAX:079-243-1156

HPからお申し込みください。http://www.rokkorugby.com

戦う決意の94点！

～奈良ムースに怒涛の16トライ！～

近畿リーグ第2戦（10月13日 天理大白川グラウンド）

六甲ファイティングブル **56 － 19** 奈良ムース

勝ちはしたが、決して内容は良くなかった千里馬戦。

全くいいところがなく惨敗した練習試合の関学戦。

近畿リーグ第2戦は、六甲の『戦う姿勢』を問われる試合であった。

風上からのキックオフ。SO前田がセオリー通りにキックで敵陣に入り込む。3分だ。22メートル付近ラインアウトからモールを組む。崩れかけたがFL福島勇が強引に前進して先制のトライをゴールにねじ込んだ。続く9分、14分、17分と、モールから立て続けにトライを重ねて、試合の主導権を握った。

「いつも立ち上がりが悪いが、今日は初めからよかったね。トライをとった後のリスタートもほぼ完ぺきやった」（北迫コーチ）

この日先発WTBに起用された市橋。京大院生ラガーが躍動する。27分にはスピードよく切り込んで相手DFをかわし公式戦初トライ。続く32分には、ラックからSH谷→LO志磨と渡ったボールをしっかりフォローして右隅に飛び込む連続トライをあげた。「こうした若手が活躍することはチームにとって大変プラスになります」抜擢した谷主将も、新たな若き力を頼もしく感じていた。

前半だけで9トライ7ゴールの55点。まだ甘い箇所がみられるのでもっと危機感をもってプレーしてほしい。あの時、こうすればよかったという前に、そうならないためにどうすればいいかを選手はもっと考えてほしい」（北迫コーチ）

風の影響もあってコンバージョンはやや不調だったが、16トライを奪って94点での勝利。

「相手に敬意をもって最後まで力を緩めることなく、アタック・デフェンスともに"攻めの姿勢"を見せることができたのは収穫」と北迫コーチもまずまずの合格点を与える。WTB市橋は後半にもトライをあげ、この日のMOMに輝いた。チームに勢いを与えるばかりでなく、サポートや、ケガ中の選手たちにも「オレも早く試合に出たい」と思わせる活躍だった。公式戦3連戦、最高の形でスタートを切った。

「敵は我にあり！」

～兵庫ダービー、芦屋クラブを完封！～

近畿リーグ第3戦（10月23日 加古川日岡山G）

六甲ファイティングブル **53 － 0** 芦屋クラブ

キックオフから39秒だった。

SO前田がタッチを狙い気味に左中間へ絶妙に転がしたキックをライン沿いを忠実にチェイスしてきたFB鳥原が芦屋DFに競り勝ち、タイミングよくボールを拾い上げそのままインゴールへ。鮮やかに六甲ファイティングブルが先制した。

4分にはラックの連取から左に展開。FB鳥原→№8中村→鳥原と、芦屋デフェンスを翻弄最後は鳥原から再びボールを受けた中村がゴールに回り込んだ。

34分。ラインアウトからモールを組んでドライブしてトライ。20－0とする。

前半終了間際、味方も本人もビックリの時間がやってきた。互いの蹴りあいからボールがスッポリと闘犬PR加村の腹の上に入り込んだ。ずんぐりした体を回転しながら前に出ると目の前に誰もいなくなった。必死の形相で約40メートルを走り抜けゴールに転がり込んだ。試合開始直後にドンピシャのタックルで気をよくした「トーキングプロップ」。プロップに走られてのトライは相手に予想以上のダメージを与えていく。

後半、ここで負けたら全国大会が厳しくなる芦屋が反撃を仕掛けてくる。六甲は防戦一方の時間が続いたが、後半16分、芦屋陣ゴール前ラインアウトで、サインミスからFL伊藤がゴールに飛び込むと、このあたりから次第に芦屋の声が小さくなっていった。34分にはデフェンスを翻弄してWTB三木がトライ。40分にはSH瀧村が右隅に走り切り、ロスタイムには再び三木がトライを決めて53－0のノーサイドとなった。

「勝って兜の緒を締めよ！」

～スーパースターズに快勝も後半立ち上がりに課題～

近畿リーグ第4戦（10月30日 神戸ユニバサブG）

六甲ファイティングブル **45 － 12** スーパースターズ

3週連続公式戦が続き、ケガ人も出てきた。仕事などでどうしても出席できないメンバーもいる中、ケガをおして出るメンバーもいた。慣れないポジションのメンバーもいた。「絶対にミスや上手くいかない時が出てくる。そこは全員でカバー、取り返そう。次につながる試合をしよう！」（谷主将）

キックオフ早々、六甲は敵陣で優位に試合を進めていく。ただ見切りが早いのか、もう少しでトライという場面で、スーパースターズの必死の防御に陣地を返されてしまう。前半11分、モールを強引に押し込み左隅に先制トライ。だがプレイクダウンの荒さや雑なプレーも目立つ。27分には相手防御を突破したFB三木が、DFを引き付けてからの「ソニービル・パス」。二宮は猛然とゴール裏まで走り切った。

31－0でのハーフタイム。まずまずの内容に少し余裕が出たのか？3連戦の疲れがあったか？

後半は、もたついた立ち上がりで、六甲は防戦一方の時間が続いた。スーパースターズも前半の反則の多さをキッチリ修正してきた。ラインアウトも急に獲得率が悪くなった。後半12分、DFに穴が開きトライを許してしまう。

追い上げられてから六甲は次々とフレッシュな力を投入していく。SH瀧村は踊るように球をさばき、CTB村尾は人に強いところを見せ、CTB福島泰は捕まっても低い姿勢からグダッと伸びてボールを前に運ぶ。後半30分、もやもやを吹き飛ばすように、LO志磨がスケール大きいタックルでタッチダウン。ゴールも決まって38－12と突き放す。

この日のMVPは二宮。若干19歳の学生選手ながら、思い切りのいいプレーとランでピッチを駆け巡った。後半途中からSOにも入り、終了間際にこの日二つ目のトライで勝負を決めた。これから先が楽しみな存在だ。45－12でのノーサイド。

「後半だけみれば4－12。これは危機感を覚えないといけません。」（谷主将）

「いいプレーはいっぱいあったけど、先を見据えたら厳しい評価になる。色々な状況の中で何に注力すればいいか理解が必要」（北迫コーチ）

WORLD　HYDRUN　ふくろう総合管理システム アスタム株式会社　HOTEL PLAZA KOBE ホテルプラザ神戸　JTB　Perfect Trainers　Nakashima
私たちは、六甲ファイティングブルを応援しています！

2016 ROKKO RUGBY F.C.

チームに新たな風！

～2016期待の新戦力～

六甲クラブに今年も多くの新戦力が集まった。彼らの存在が既存の部員たちとの競争を呼び、リーグ戦をこなしチーム力はさらに上昇。谷主将も「全国大会のメンバーを選ぶのに本当に悩みます」とうれしい悲鳴だ。ここでは数名をピックアップして紹介しよう。

まずはFL・中村圭佑（関学大）。社会人2年目。「もう一度ラグビーを真剣にやりたい」と六甲にやってきた。高校時代は東福岡で2年から2度の高校日本一を経験、進学した関学大では1年からAチームに入り「朱紺」のジャージを着続け、U20日本代表にも選ばれている逸材だ。177センチと、さほど身長は高くはないが、一撃で仕留めるタックル、捕まってもグダッと前に伸びる体幹の強さで攻守の中心となっている。「圭佑と同級の布巻（東福岡→早大→パナソニック）ら小柄なFLが日本の三列を背負っているが、もう数年早かったら、トップリーガーの第一線で戦っていたはず」と谷主将も絶大な信頼を寄せる。プレーとは裏腹に少しシャイな?性格のようだが、「初めて来たときから六甲の雰囲気がいいと感じて、そこが入る要因になりました」。今ではすっかりクラブになじんでいるようだ。「六甲は面白い選手がたくさんいる。寺田さんなんか、初めて会ったときは絶対プロップだと思ってたのに、センターなんてホントにびっくりしました（笑）」。カテゴリーは違えど久々の全国の舞台。「攻守ともにチームに貢献して日本一になりたいです！」と言葉にも力がこもる。

LO・青山亮太（北大大学院）は今春、新卒で北の大地から神戸にやってきた。昨季までは北海道バーバリアンズに所属。東日本クラブ選手権でも優勝し、「日本一を知る男」でもある。リーグ初戦で古傷を痛め、リハビリに務めながらチームサポートをしていたが、11月末のJR西日本戦での復帰戦では出られなかった鬱憤を晴らすかのように荒々しくピッチを駆け巡った。「バーバリアンズやタマリバを倒して六甲の全国制覇に貢献できるよう頑張ります」とこちらも燃えている。

ケガから復活を期する選手がもう一人いる。SO・亀谷温（関学大）だ。「カメちゃん」の愛称で親しまれ、関学時代から国体で六甲の選手たちとはなじみが深い。優しい顔つきに似つかわしい強気なゲーム運びで、ゴールキッカーも務める。リーグ初戦のケガのため、青山同様サポートに回っていたが、全国の舞台には間に合いそうだ。「最後まであきらめず精一杯頑張ります」と静かに闘志を燃やしている。

今季のリーグ戦でブレイクしたのはWTB・市橋渓だろう。「六甲の全国優勝に向けて努力出来ることを幸せに感じています」。全国屈指の名門・北野高から京大大学院という秀才だが、プレーの方はがむしゃらとひたむきさを感じさせる。先輩選手のアドバイスなどどんどん吸収して日々成長を感じる選手。「全国メンバーに食い込めるようにこれからもどんどんアピールしていきます」と益々意気盛んだ。

WTB・二宮翔は若干19歳。少しふてぶてしい風貌と粗削りながらも思い切りのよいプレーでリーグ戦を盛り上げている。「年齢や世代を関係なく、ラグビーを楽しめるところが六甲の好きなところです」と語る。二ノのセンスは六甲の宝です。たくさんいる六甲の先輩選手のいい部分を吸収して大きく育ってほしい」と谷主将も将来を見据えて色々なポジションを経験させている。「全国大会、出場機会があればベストパフォーマンスを出します！」と気合が入る。

他にも大型LOの平岡、竹田。2年目となるCTB村尾やFB鳥原など有力選手たちが全国メンバー入りを照準に日々努力を重ねている。

クラブ力でも日本一を目指す

試合ではピッチ上の選手が注目されがちだが、多くの「裏方」がサポートに回っている。給水係やボールボーイはケガ人や試合メンバーに選ばれなかった選手が務める。皆、試合に出たい気持ちをグッとこらえてサポートに回り、ピッチの外から選手たちに声援を送る。トレーナーは試合前後に選手の体重測定をするなど体調をチェック。各選手のテーピングなど、限られた時間にフル回転で動き、選手を最高の状態で送り届けるよう心掛けている。マネジャーも氷やドリンク準備、試合ベンチの設置、片付けなど雑務を懸命にこなしていく。皆、その先にあるのは「チームの勝利」だ。

特に試合後、恒例となっている走り込みには、メンバー外が進んで盛り上げていく。「自分が試合に出られないのに、多くの人が集まってサポート、応援してくれる。これが六甲クラブの強さ、伝統だと思います。試合に出るメンバーはいつもそれを背負って戦うことを意識して戦わなければならない」と谷主将も頼もしく感じている。

試合に出るメンバーが100％のパフォーマンスができるように。メンバーは支えてくれる仲間の為に。人は何かの為に戦うと不思議と勇気と力が湧いてくる。六甲クラブの強さの秘密はそこにある。

エイブル　GLION GROUP　SKS　Yasuda Engineering Co.,Ltd. ヤスダエンジニアリング株式会社　arima-f.com　BAD BOY　BLUE LINE